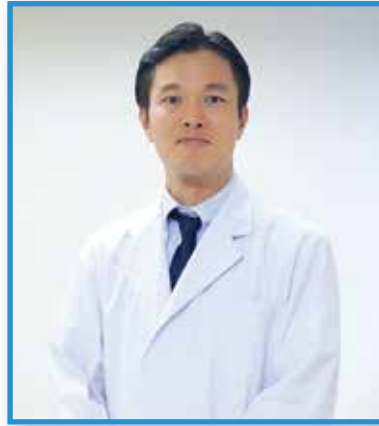


前立腺がん放射線治療における副作用軽減、精度向上に取り組んでいます

泌尿器科主任部長 鈴木 透^{とおる}

兵庫医科大学卒業、同大学で初期研修の後、明和病院や当院で勤務。その後、大学院、1年間のドイツ留学を経て令和元（2019）年7月から当院に赴任。専門は前立腺がん。日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡認定医、日本がん治療認定医機構認定医、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器ロボット支援手術プロクター。



Q1. 前立腺がん治療について教えてください

転移のない前立腺がんの治療には、手術や放射線治療という選択肢があります。

手術の場合、日本ではロボット支援手術が全体の8割以上を占めています。開腹手術や腹腔鏡手術^{ふくくうきょう}と比較して、手術成績や術後のQOL(生活の質)の維持に優れており、私も積極的にロボット支援手術をお勧めしています。当院にはロボット支援手術の設備がないため、市外の医療機関で私が執刀し、術後に状態が落ち着いてからは、当院で引き続き外来診察をしています。

また、当院は市内で唯一放射線治療を行っており、最新の治療機器を導入しています。年間約60人の前立腺がんの患者さんを治療しています。

Q2. 放射線治療の副作用について教えてください

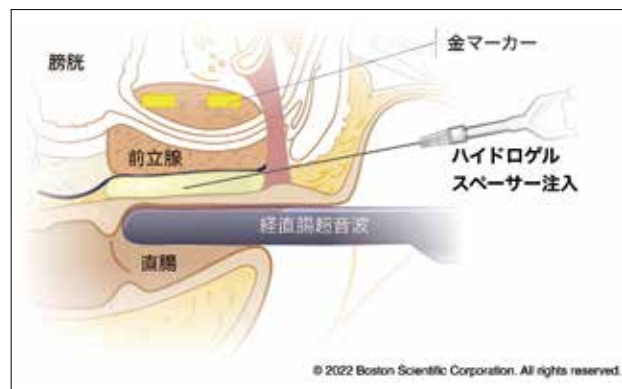
前立腺がんの放射線治療における副作用の軽減と、精度向上のために行っているハイドロゲル直腸スプレーと金マーカーという処置を紹介します。

ハイドロゲル直腸スプレー (SpaceOAR)

科学技術の急速な発展により、従来よりも高い放射線量の照射が可能になりましたが、がん細胞にピンポイントで照射することは困難で、周囲にある直腸や尿道の一部にも放射線が照射されてしまいます。

SpaceOARは、前立腺と直腸の間に注入することで、前立腺と直腸を1cmほど離すことができ、直腸に照射される線量を減らすことができます。これ

により、下痢、頻便、出血などの副作用を軽減できます。また、細胞への障害や刺激はなく、6カ月程度で自然に吸収されます。1泊2日の入院で局所麻酔で下図のように留置します。



金マーカー

当院では、放射線治療の照射位置合わせをするために、治療直前にCT撮影をします。金マーカーという非常に小さな金属をあらかじめ前立腺内に留置しておくことで、放射線の照射位置の精度を高めることができます。これによって、病巣に放射線が集中し、高い治療効果と副作用の軽減が期待できます。

通常はSpaceOARと金マーカーを同時に使用します。

Q3. 最後にひとことお願いします

日本では、前立腺がんの患者数が増加傾向にあり、昨年の統計によると男性の部位別がん罹患数のトップとなっています。健診やかかりつけ病院の腫瘍マーカー (PSA) 採血で異常を指摘されたら、紹介状を持参の上、当院を受診してください。